ルカ否カヲ裁判スルノ途ヲ開カズ

林委員

命令ヤ處分カ法律ニ違反シタル場合如何

入江法制局長官

第七十七條ハ憲法ト他ノ法令トノ關係ニ重キヲ置キ命令ヤ處分ニ付テハ當然裁判所ガ個々ノ事件ニ關聯シ判定權アリト思料ス

松本國務大臣

命令ガ法律ニ違フ場合當然裁判所ニ判定權アリ法律ガ違憲ナルコトヲ裁判所ガ決定ス

ルコトヲ得ザルコトハ一般ニ認メラルル所ナルガ本憲法ハ之ヲ可能ナラシメタルモノナリ而シテ之ガ運用ニ付テハ私見トシテハ事案ヲ具體的ナ事件ヨリ引離シ最高裁判所ニテ判定シ而シテ具體的ナ事件ヲ當該下級裁判所ニ於テ裁判スルヲ可トスト思料ス。

林委員

第七十七條第二項ト憲法違反ノ法律ヲ無效トスル第八十四條トノ關係如何

松本國務大臣

第八十四條ハ第七十七條第二項ト相對應スルモノニシテ第七十七條ノ二項ニ依リ九十四條ノ内容ヲ判定スルモノナリ九十四條ニテ條約ヲ省キタルガ他國トノ關係ハ一國ニ於テ破毀シ得ザルガ故ナリ

林委員

第七十七條第二項ハ具體的ナ事件ヲ判斷スルニ當リ必要ニ應ジ判定スルモノナルカ又ハ特殊ノ事件ニモ關係ナク法律等ノ違憲性ヲ判定シ得ルモノナルカ

松本國務大臣

第九十四條ノ規定ニ拘ラズ一應ハ有效ト認メラレ之ニ爭アル場合最高裁判所ニ於テ違憲ナリヤ否ヤヲ決定スルモノナリ

林委員

第七十八條但書ニ關シ政治ニ關スル犯罪ニハ政治上ノ秩序破壞ト政治上ノ動機ニ基ク犯罪トノ二種アリ何レヲ意味スルヤ

佐藤法制局次長

前者ヲ中心トスルモ兩方ヲ含ミ得ルモノニシテ具體的ニハ法律ヲ以テ明カニセントス

林委員

出版物ニ關スル犯罪ヲ公開スルハ犯罪トシテ罰シ乍ラ却テ之ヲ世上ニ流布スル結果ヲ來スノ不都合ナキヤ

佐藤司法省刑事局長

公開ノ結果公序良俗ヲ維持スルコト難キ惧アル場合ハ刑事訴訟法等ニヨリ憲法ニ反セザル程度ニ於テ之ヲ制限スルノ途ヲ講セントス

松本國務大臣

PHOTO SIGNAL CORPS STAT U.S. ARMY

但書ノ趣意ハ非常ニ廣ク解スルニ及バズ而モ公開ノ内容ヲ文章トシテ出版スルコトハ別ノ犯罪トナリ得ベク之ニハ一定ノ制限ヲ附シ得ルモノト思料ス

河原委員

1 第七十七條ノ第一項ト第二項トノ關係如何

2 法律等ガ違憲ナルヤ否ハ事件ヲ離レ單獨ニ判定シ得ルカ

松本國務大臣

1 第一項ト第二項ノ關係ハ別ノコトト見テ差支ヘナシ即チ第一項ハ最高裁判所ハ終審ナルコト第二項ハ法律等ガ違憲ナリヤ否ヲ判定スルハ最高裁判所專屬ノ管轄ヲ有スルコトヲ定ム下級裁判所ニ於テモ違憲ナリヤ否ハ判定シ得ルモソノ場合ニハ結局上訴セラレ最高裁判所ニ於テ決定セラルルモノナリ

2 事件ヲ離レテ判定スルハ果シテ司法權ノ作用ニ含マルルカ疑アリ結局事件ニ關聯

シテ之ヲ決定スルヲ要スベシ

美濃部委員

第七十二條中ノ司法權ハ民事及刑事ノ裁判權ニ理解スベク之ニ含マレザル行政事件ノ裁判ニ付テハ如何ニ為サントスルカ

松本國務大臣

司法權ノ解釋ヲ民事及刑事ノ裁判權ニ限ルハ現行憲法及之ニ基ク法令ノ解釋ニシテ凡ソ法律關係ガ公法的ノモノナルカ又ハ私法的ノモノナルカハ極メテ不明瞭ナレバ苟ク

モ權利ノ保護ニ關スルモノハ司法權ノ作用ト解シ得ベク本案ハコノ觀念ニ立ツモノニシテ從テ第七十二條第一項ニヨリ行政事件ノ裁判モ最高及下級ノ裁判所ニ於テ之ヲ行フモノトス

美濃部委員

然ラバ茲ニ司法權トハ廣ク裁判權ノ意ナリヤ即チ一切ノ裁判ガ總テ之ニ含マルルヤ

松本國務大臣

苟クモ國民ノ權利義務ニ關スル法規ノ解釋

ニ依ル裁判ナレバ司法權ノ作用ニシテ從テ第七十二條第二項ニ依リ別ニ特別裁判所ヲ置カザルナリ

美濃部委員

然ラバ學生ハ本案ノ第二十四條ニ依リ教育ヲ受クル權利ヲ有スルカ退學ヲ命セラレタルトキ訴訟スルコトヲ得ルヤ

松本國務大臣

退學等ニ救濟ヲ與フルヤ否ヤハ立法ノ問題ニシテ自ラ別問題ナリ

美濃部委員

第七十二條第二項ノ終審ニ非ザル裁判ハ司法權ニ含マレザルヤ含マズトスレバ同條第一項ノ「すべて」トアルニ反スルモ如何

松本國務大臣

第二項ハ例外ナリ

美濃部委員

訴願ノ裁決ヲ以テ確定スルコトヲ許サザルカ

松本國務大臣

208

權利義務ニ關シ法律上ノ解釋ニ依リ決スルモノハ實質的裁判ニ當リ行政機關ニ於テ最終的ニ判決スルコトヲ得ザルモ裁料處分ニ關スルモノハ行政機關ニ於テ之ヲ確定スルコトヲ得

美濃部委員

然ラバ如何ナル行政事件ヲ以テ出訴シ得ルモノト為スカ

松本國務大臣

出訴シ得ル事項ハ限定スルコトトシ立法ニ

當テ之ヲ定メントス

（正午ー午後一時休憩）

美濃部委員

行政裁判モ司法權ノ一部ナリトセバ第五十一條及第六十條ノ彈劾裁判ノ如キモ司法權ノ作用ニシテ即チ國會ガ司法權ヲ行フモノト解スベキカ即チ此等ハ第七十二條ノ例外規定ナルカ

入江法制局長官

行政ニ關スル裁判ガ總テ司法權ニ屬スルカ

PHOTO SIGNAL CORPS STAT U.S. ARMY

ハ明瞭ナラズ選擧訴訟、當選訴訟ノ如キハ司法權ト謂ハンヨリ行政的性質ヲ帶ビタルモノト思料ス彈劾裁判モ國民ノ權利義務侵害ニ對スル爭ナラザルガ故ニ實質的ナル司法權ノ作用ニ入ルルコトハ無理ナルベシ

美濃部委員

海員審判所、簡易保險審査會ノ如キハ第七十二條第二項ニ反スルモノナルカ

松本國務大臣

海員懲戒ノ如キ特殊ノ關係ニ在ルモノノ懲

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

ハ明瞭ナラズ選擧訴訟、當選訴訟ノ如キハ司法權ト謂ハンヨリ行政的性質ヲ帶ビタルモノト思料ス彈劾裁判モ國民ノ權利義務侵害ニ對スル爭ナラザルガ故ニ實質的ナル司法權ノ作用ニ入ルルコトハ無理ナルベシ

美濃部委員

海員審判所、簡易保險審査會ノ如キハ第七十二條第二項ニ反スルモノナルカ

松本國務大臣

海員懲戒ノ如キ特殊ノ關係ニ在ルモノノ懲

戒ハ司法權ノ觀念ヲ以テ解セラルベキニ非ズ簡易保險審査ハ單ニ中間的手續ニ過ギズ一般國民ノ權利義務ニ關スル事件ハ司法權ニヨリ判定セラルルモ特殊ノモノハ自ラ別ナリ

美濃部委員

町村ノ境界爭ノ裁定ハ如何ニ爲スカ

松本國務大臣

法人ト法人ノ權利義務關係ニ付テハ等シク裁判所ニ於テ最終的ニ決セラルベキモノト

思料ス

美濃部委員

1 裁判所ノ中ニハ陪審員モ含ムカ然リトセハ第七十二條第三項ノ裁判官ニハ陪審員モ含ムヤ

2 同項ノ法律ニハ命令ヲ含マザル意ナルカ

入江法制局長官

1 裁判官ニハ陪審員ヲ含メズ

2 第三項ノ法律ハ形式的ノ意味ノ法律ニシテ命令ヲ以テ裁判官ヲ拘束スルハ適當ナ

樞密院

ラズトノ趣旨ニ依リ法律ノミヲ掲ゲタルモノニシテ従テコノ法律中ニハ解釋上其ノ延長タル委任命令ヲ含ムモノナリ

美濃部委員

第七十七條ハ命令、規則、處分迄モ掲ケルニ第七十二條ハ裁判官ガ憲法、法律以外ニ拘束ヲ受ケザルコトトス兩條ノ關係如何

入江法制局長官

第七十二條ハ司法權獨立ノ趣旨ヲ以テ特ニ之ヲ掲ゲタルモノナリ

遠藤委員

〇新憲法ニ於ケル裁判所ノ構成ヲ問フ

松本國務大臣

個人的構想トシテハ最高裁判所ハ裁判官ノ員數ヲ現在ノ大審院ヨリ少クシテ之ニ助手ヲ配シ更ニ事務局ヲ設ケ下級裁判所ハ控訴院ヲ強力ニシテ行政事件ハ其ノ管轄トスル外概ネ現行通ト為サントス

遠藤委員

現在ノ行政裁判所ハ特別裁判所ニ非ズ一種

ノ行政官廳ナリト思料スルモ如何

松本國務大臣

本案ニ於テハ現在ノ行政裁判所ノ職權ハ司法權ノ作用トナルモノナリ

遠藤委員

訴願ノ如キハ司法權ノ範圍外ト考ヘテヨキカ

松本國務大臣

權利義務ノ決定ニ關スル裁判的意味ヲ持ツモノハ終審トシテニ非ザル限リ行政機關ニ

於テ裁判スルモ差支ナク其ノ司法權ニ屬スルヤ否ヤハ憲法ノ運用ニ付問題トナルコトナシ

遠藤委員

然ラバ行政裁判所ハ新憲法ノ下ニ於テモ存續シ得ベク本官ハ終審トシテデナク之ヲ存置スルコトヲ希望ス

松本國務大臣

憲法上ハ差支ナシト考フルモ之ヲ存置スル要ナシト思料ス

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

遠藤委員

第七十五條ニ關シ内閣ノ任命シタル者ニ付國民ノ審査ニ付スト云フハ實際ニ於テ不能ナルベシ評議ヲ公開スルモソノ構成裁判官ガ適任ナリヤ不適任ナリヤハ國民ニハ不明ナリ不明ナル者ニ判斷セシムルハ弊害ヲ來スノミナレバ寧ロ此ノ制度ハ廢止スルニ如カズト思料ス尚第七十八條但書ニ關シ國民ノ權利例ヘバ第二十三條ニ關シ裁判ヲ公開スルハ弊害ヲ伴フコトアリト認ムルモ之ヲ

PHOTO SIGNAL CORPS STAT U.S. ARMY

削除シ得ザルカ

松本國務大臣

政府原案トシテハ削除ノ意ナシ

關屋委員

第七十五條第四項ノ報酬ハ通常ノ官吏ノ俸給ト異ナルカ特ニ之ヲ規定シタル理由如何議會カ之ニ關與シ得ザル意ナリヤ

入江法制局長官

官吏ノ俸給ト同一ノ觀念ナルガ裁判官ハ獨立ノ見地ヲ以テ憲法上特ニ之ヲ保障シタル

ト在任中減額セサルノ保障ヲ與ヘタルノ二點ニ意義ヲ有ス國會ノ審議權ヲ拘束スルト云フ意味ニ非ス

松本國務大臣

新憲法ハ現在ノ大權ニ基ク既定ノ歳出ニ關スル規定ヲ缺クカ故ニ國會ハ行政官ニ付其ノ俸給ヲ減シ得ルモ裁判官ニ付テハ一定ノ報酬ハ國庫ノ義務ニシテ若シ定額ガ豫算ニ計上セラレス一定ノ報酬ヲ受ケ得サルトキハ司法上ノ保護ヲ求メ得ヘク從テ現行憲法

220

第六十七條ニ於ケルト結果ニ於テ同樣ナリ

潮委員長

行政事件ニ關スル裁判ノ機構ハ如何ニスルカ

松本國務大臣

行政事件ヲ扱フニ應ハシキ控訴院一二箇所ニ行政部ヲ置キ最高裁判所ニ付テハ特ニ行政部ヲ置クス適當ナル判事ヲシテ事件ヲ擔當セシムルコトト爲サントス

潮委員長

行政事件ノ裁判官ノ資格ハ如何ニスルカ

松本國務大臣

裁判所ニ行政部ヲ置キ行政裁判ヲ行フコトトナレバ現制ニ於ケル判事ノ資格ノミナラズ永ク行政官ノ職ニ在リタル者ヲ採用スルヲ適當トスルノ考ナリ

次ニ潮委員長ハ第七章財政ヲ議題ニ供ス

林委員

第八十二條ニハ毎會計年度ノ豫算トアリテ次年度ニ亘ルモノハ組ムコトヲ得ザルカ如

シ現行憲法ニ於ケルカ如ク繼續費ノ制度ハ認メラレザルカ

入江法制局長官

第八十二條ハ現行憲法ノ第六十條ト趣旨ヲ同ジクシ從テ毎會計年度ト云フハ例外的ニ數年ニ亘ルモノノ存在ヲ否定シタル趣旨ニ非ズ繼續費ニ關シテハ會計法中ニ規定スルコトトシタシ

林委員

現行法ノ豫算外支出即チ豫備費ヲ以テ賄ヘ

サル場合ノ支出ヲ許サザルカ

入江法制局長官

第八十三條ハ豫見シ難キ豫算上ノ不足ハ必ス豫備費ヲ以テ支出シ他ニ責任支出ヲ認ムルコトナシ

松本國務大臣

新憲法ハ國會ノ議決ニ重キヲ置キ前年度剰餘金アルモ責任支出ヲ認メズ新制度ニ於テハ實際上議會ノ召集繁ク且會期永カルベキヲ以テ不都合ノコトナシト思料ス尚第五十

SIGNAL CORPS PHOTOSTAT 10 U.S. ARMY

條ノ規定モ存スレバ責任支出ヲ認ムルノ要
ナシト思料ス

林委員
豫算不成立ノ場合ノ措置如何

入江法制局長官
特別ノ規定ヲ設ケズ然レバ直ニ議會ヲ開キ
豫算ヲ成立セシムルノ外ナシ議會ノ開會ニ
至ル迄ノ措置トシテハ會計法ニヨリ假豫算
ノ制ヲ設ケ又ハ豫備費ノ繰越使用ヲ認ムル
等ニヨリ半月乃至一月ノ措置可能ナルベシ

松本國務大臣

前年度豫算踏襲ノ制ハ外國ヨリノ攻撃モアリ實際上モ必スシモ適當ナラザルガ故ニ之ヲ廢シ寧ロ會計法ニ於テ適宜ノ方途ヲ講ズルヲ可トス

林委員

債務ヲ負擔スル條約ニ付第八十一條ト第六十九條トノ關係如何

入江法制局長官

條約中ニ債務ヲ負擔スルモノアルトキニ付

テハ目下研究中ナルガ第六十九條三號ガ第八十一條ノ特例ヲ為スモノナリト解ス

林委員

第八十四條ニ付世襲財産ノ決定ハ何ニ基キテ之ヲ為スカ

入江法制局長官

世襲財産ノ決定ハ皇室財産法ニ規定シ其ノ範圍ハ政府ト宮内省ニ於テ決定シ得ル如ク為サントス現在ノ世傳御料ハ即チ世襲財産ニ非ザルモ實體ニ於テハ世傳御料ト同樣ナ

SIGNAL CORPS PHOTO STAT 10 U.S. ARMY

リ

林委員

世襲財産以外ノ皇室財産ヲ凡テ國有トスルハ妥當ナラズト思料スルモ如何

松本國務大臣

茲ニ所謂財産ハ御身邊ノ道具ノ如キヲ含マズト解スルヲ相當トシ之ヲ條文ニ明定セザルモ精神上ヨリ斯ク解スルコト可能ナルベシ尚第八十一條ト第六十九條トノ關係ニ付例ヘバ國ク賠償條約ヲ結ブトキハ第六十九

條ノ規定ノ如ク議會ノ事後承認ヲ求ムル場合アリ而モ債務ヲ負ヒタル以上ハ如何トモ致シ難キニ由リ結局第六十九條ガ優先スルコトトナルナリ

林委員

第八十四條ニ關シ「法律の定める皇室の經費」ノ意味如何

入江法制局長官

内廷儀禮下賜ノ費用ノ如キヲ謂ヒ此等ハ皇室ノ支出トシテ限定的ニ豫算ニ計上セラレ

國會ノ同意ヲ要スルナリ

林委員

1、第八十五條ニ關シ公ノ支配ニ屬スルト否トハ何ニヨッテ決スルカ

2、本條ノ立法趣旨如何私立學校ニ補助アリヤ

入江法制局長官

1、法令ノ根據ニ依リ國又ハ公共團體ガ指導監督スル關係ヲ公ノ支配ト云フ

2、本條ノ立法趣旨ハ感情ニ訴ヘル事業恩惠

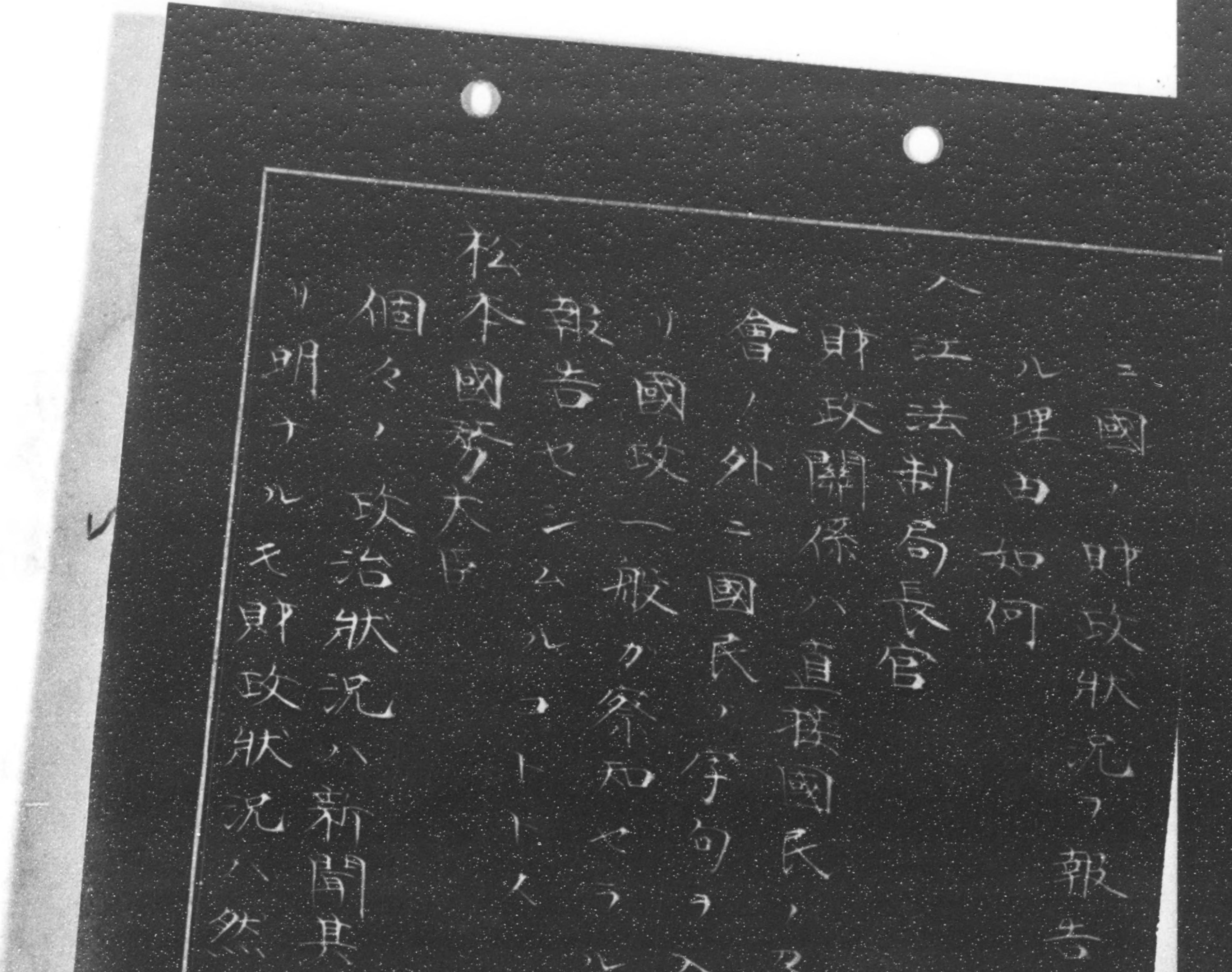
ヲ施ス事業ハ私ノ關係ニ於テ爲スベキモノニシテ公ニ之ヲ爲スハ恩ヲ賣ルノ結果トナルニ由リ權力ノ色彩ナキ者ヲシテ自由ニ爲サシムルコトトス而シテ私立學校ハ私立學校令ニ基キ國家ノ特別ノ監督ニ服スルヲ以テ公ノ支配ニ屬シ從テ之ニ對シ補助シ得ルモノナリ

林委員

第八十七條ニ付國會及國民ニ對シト書分ケタル理由及他ノ國政一般カラ之ヲ引離シ特

樞密院

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT ARMY



ニ國ノ財政状況ヲ報告セシムルコトトシタ
ル理由如何

入江法制局長官

財政關係ハ直接國民ノ負擔ニ關係アレハ國
會ノ外ニ國民ノ字句ヲ入レ又財政状況ニヨ
リ國政一般ヲ察知セラルルニ由リ特ニ之ヲ
報告セシムルコトトス

松本國務大臣

個々ノ政治状況ハ新聞其ノ他ノ報道等ニ由
リ明ナルモ財政状況ハ然ラザルカ故ニ一回

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

報告ノ要アリトス尚第八十五條ハ素性ノ知レザル事業等ニ對シテ公金等ヲ支出シ得ザル原則ヲ示シタルモノナリ

河原委員

第八十三條中「内閣の責任で」ト云フ趣旨如何

入江法制局長官

單ニ道義的意味ノミ

河原委員

第八十四條ノ皇室財産ノ意義如何

入江法制局長官

世襲財産ヲ意味シ前段ノ皇室ノ財産トハ別ナリ而シテ前段ハ世襲財産ヲ解除スル場合ノ措置ヲ含ミ従テ必ズシモ經過的規定ニ非ズ

河原委員

第八十四條ノ「皇室の經費」ノ計上セラルルハ一般豫算ナルカ

入江法制局長官

一般ノ豫算ニ計上セラルベク従テ議會ノ議決ヲ要スルハ當然ナルガ茲ニ云フ意味ハ特

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U. S. ARMY

ニ皇室ノ支出トシテ豫算ニ計上セラルル費用ニ付同意ヲ要スベキ旨ヲ強調シ事實上ハ豫算ニ對スル一個ノ議決ニ含マルベシ

河原委員

第八十六條ノ「次の年度」ノ意義如何

佐藤法制局次長

決算ノ行ハレタル年ニ檢査院ガ檢査シ其ノ次ノ年度ニ國會ニ提出スルコトトス

美濃部委員

第八十四條ニ付皇室ニ對シ世襲財産以外ノ

財産ヲ認メザル趣旨ナルカ第八條トノ關係調和如何

入江法制局長官

皇室ノ財産ニハ世襲財産及天皇皇后皇族等ノ私ノ財産ノ二種アリ第八十四條ノ規定スル所ハ專ラ世襲財産ノミニ關ス第八條ニ依リ國民トノ間ニ財産ノ授受アリタルトキ之ヲ世襲財産トスレバ皇室ノ財産トナリ然ラザルトキハ國ノ財産トナルナリ

遠藤委員

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

第八十條ニ關シ税率ノ變更ニ付規定ナキ理由如何

佐藤法制局次長

格別ノ理由ナシ

遠藤委員

第八十二條ニ審議ヲ受ケント持ニ規定シタル理由如何

佐藤法制局次長

法律等ノ議決ト異ナリ豫算ハ必ス政府ヨリ提出スル等ノ差違アリ斯ル文字ヲ入レタ

ルノミ

遠藤委員

第八十四條ニ付皇室財産ハ世襲財産ト考フルモ如何又皇室財産カラ生ズル收益ヲ以テ皇室ノ經費ニ充テ之ヲ豫算ニ計上シテ國會ノ同意ヲ要スルモノトスル趣旨ナルカ

入江法制局長官

然リ

遠藤委員

收益ハ當然皇室ニ入ルコトトシ之ヲ以テ四

PHOTO SIGNAL CORPS STAT 10 U.S. ARMY

近ノ費用ヲ賄フコトヲ望マシト考フルモ如何

入江法制局長官

關係方面ト折衝ノ結果國庫ノ收入トスルノ外已ムナカリシモノナリ

遠藤委員

然ラバ收益ナキ世襲財産ヲ保持セラルヽノ實益如何

入江法制局長官

唯タ世襲財産ヲ解除シ陛下又ハ皇族御自身

ノ財産トスル際ニ便アリト認メラルル外名目ノミ

關屋委員

第八十四條ニ付テハ皇室ノ經費ヲ如何ニ考フルカガ先決問題タルベシ條文ニ付テモ不滿ナルガ次回ノ質疑ニ讓リタシ

松本國務大臣

皇室財産ニ付テハ皇室ニ關スル豫算ノ組方ヲ大キクシ例ヘバ皇室豫算ノ全額ヲ一本トシ其ノ内譯ハ隨意ニ支出シ得ル如ク爲サン

SIGNAL CORPS PHOTO 10 ARMY

トスルノ意圖ヲ有スルモ政府單獨ニ之ヲ決
定スルハ不能ナリ
潮委員長本日ハ之ヲ閉會スル旨ヲ宣ス
（午後四時閉會）

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件

第八回審査委員會

昭和二十一年五月十五日（水曜日）樞密院事務所ニ於テ開會

出席者

鈴木議長

清水副議長

審査委員長

潮顧問官

審査委員

林　顧問官

小幡　顧問官

竹越　顧問官

野村　顧問官

河原　顧問官

美濃部　顧問官

遠藤　顧問官

關屋　顧問官

幣原　顧問官

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAFF
U.S. ARMY

闕席者

大平顧問官

審査委員

井坂顧問官

國務大臣

松本國務大臣

説明員

入江法制局長官

佐藤法制局次長

宮内事務官

渡辺事務官
佐藤（功）事務官
塚越宮内省内蔵頭
郡内務省地方局長
諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官

（午前十時二十五分開会）

潮審査委員長開會ヲ宣ス

關屋委員

1、第八十四條ノ皇室ノ世襲財産ノ範圍如何

2、皇室ノ經費ヲ豫算ニ計上セザルノ規定アルモ議入如何

3、皇室經費ニハ皇族ノモノモ含ムヤ

4、第八十五條ノ趣意如何又實際ノ運用上支障ナキヤ

松本國務大臣

1、觀念的ニハ動産不動産ハ勿論一團ヲナシ

SIGNAL CORPS PHOTO 10 ARMY

居ル皇室財産ヲ含ムモ今後皇室財産法ニヨリテ決定セラルベシ

2 収入ハ国庫ノ収入トナルヲ以テ予算ニ計上セラルル又収入ハ世襲財産ノ範囲ノ定メ方ニヨリテ決定セラルベシ

3 然リ

4 公金等ヲ使用スルヲ不可トナスニ非ズ濫費等ヲ防止スル趣意ナリ運用上支障アル場合ハ各事業ヲ公ノ支配下ニ置クル、如キ措置ヲトラバ足ルベシ

潮委員長

一 皇室經費ヲ特別會計トナス考ヘナリヤ

2. 第八十五條ノ公ノ支配ト要綱ノ國ノ管理トハ如何ニ異ルヤ又公ノ支配ニ關シ之ガ根據トナルベキ法ヲ制定スル考ヘアリヤ

松本國務大臣

一 未定ナルガ特別會計トハ異ルモノトセラルベシ

2. 地方團體ヲモ含マシムル意味ニ於テ「公ケ」トナシ廣義ノ「支配」ノ語ヲ採用セリ又根據

法ニ關シテハ補助ヲ要スベキモノニ付立法的ニ解決スル方法モアリ得ベシ

（午後零時―午後一時五分迄休憩）

次ニ第八章地方自治ヲ議題ニ供ス

小幡委員

第八十九條ノ「その他の吏員」トハ何ヲ豫定シ居ルヤ又吏員ノ選擧ハ市町村長ノ選擧ト一緒ニ行フヤ別途トナルヤ

入江長官

大都市ナレバ助役一人及考査役ヲ公選ニ豫

PHOTO SIGNAL CORPS STAT U.S. ARMY

定シアリ選擧ニ關シテハ技術的ニ困難モア
ルニ付未定ナリ
河原委員
政令ヲ以テ委任事務ヲ課シ支障ナキヤ
入江長官
根據ハ法律タルヲ要スルモ現在勅令ヲ以テ
シ居ル限度迄ハ可ナルベシ
美濃部委員
地方官廳ト地方議會ノ關係ヲ内閣ト國會ト
ノ關係ノ如クセザリシハ不可解ナリ、斯クテ

250

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

ハ行政部ト議會トノ間ニ直接ノ連絡ナク且ツ又住民ノ直接選擧トナシタレバ兩者間ニ絶エズ衝突ヲ惹起スベク又縣知事ト補助吏員トノ間ニモ統制ヲ保チ得ザルニ非ズヤ

松本國務大臣

貴見尤モト解スルモ本案ニ於テハ國ノ關係トハ反對ニ地方行政ニプレーデンシヤルデモクラシーノ色彩ヲ加味シ行政ト立法トヲ分離セシメ進退其ノ他ニ關シ地方議會ノ制肘ヲ直チニ强ク受ケシメザルヲ妥當ナリト

思料セシニ由ル又多少獨立セシメ置クヲ可トナス吏員ノミヲ公選トシ而モソノ數ヲ少數ニ止ムルヲ可ナリト思料セリ直接選擧ハ大ナル地方團體ニ於テハ實際上頗ル困難ナルベシ

遠藤委員

1 地方自治の本旨トハ何ゾヤ

2 第八十八條ノ運營トハ如何ナル事務ノ謂ナリヤ

3 地方公共團體ノ長ニ對シ官吏トシテノ身

SIGNAL CORPS PHOTO 10 STAT ARMY

命ヲ與フルヤ

入江長官

1 地方民ガ地方的ニ結集シ地方民ノ意思ニ從ヒテ行政ヲ為サルヽコトヽ解ス

2 固有委任兩事務ヲ指セリ

3 本案ノ本體トシテハ公吏ガ理想タルベキモ官吏トナスヲ憲法上禁止セルモノトハ解シ居ラズ要スルニ地方自治ノ本旨ニヨリテ決定セラルベシ

關屋委員

1、地方自治ノ本旨ヲ再度説明セラレ度シ

2全テ地方民衆ノ直接選挙ナレバ米ノ供出等ノ問題モアリ地方分権ノ弊ヲ増大セシムル虞ナキヤ

内務省地方局長

1市制町村制発布ノ際ノ上諭ニ示サレタル通リト信ス

2吏僚組織ノ適正化輿論ノ監視等ニヨリ遺憾ナキヲ期スル所存ナリ

潮委員長

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

1 往時ノ如ク政黨ノ交代ニヨリテ吏員ノ動遷スル虞レアリ吏員ノ身分保障制度ヲ要セザルヤ

2 地方分權、地方自治ノ擴充ニ關聯シ、同時ニ現在ノ府縣區域ノ整理ヲ考慮スベキト考フルガ如何

松本國務大臣

1 非選擧吏員ノ動遷ヲ防止スル樣立法的措置ノ要アルベシ、然シ共國民各自ガ民主主義精神、遵法精神ニ徹スルヲ前提トス

255

PHOTO SIGNAL CORPS 10 STAT U.S. ARMY

2私見ニヨレバ現在ノ區域ハ廣キニ過クベシ地方官廳ノ權能ヲ強化スル反面公共團體ノ力ヲ少ク弱ムル要アルベシ

内務省地方局長

1目下區域ノ變更ヲ直チニ行フ考ヘナシ

次テ第九章ヨリ第十二章迄ヲ一括シテ議題ニ供ス

河原委員

第九十二條ニ「天皇は國民の名に」トアルハ如何ナル意味ナリヤ

SIGNAL CORPS PHOTO STAT 10 U.S. ARMY

入江長官

實質ヲ示シタルモノニシテ實際上ノ取扱ハ
上諭ニ「朕ハ國民の名て」トセラルヘシ

美濃部委員

第九十三條ハ法律的ニ無意味ナル規定第九
十四條第九十五條何レモ不可解ナル規定ナ
レハ第十章ヲ削除シテハ如何

松本國務大臣

何レモ道義的意義ノ濃厚ナル規定ナル點ニ
意義アリ削除スルモ法律ノ實際ニハ支障ナ

一　遠藤委員

1 第九十四條ノ條規ニ反する法律云々トアルハ本案施行ノ際現ニ存スルモノノ謂ナリヤ

2、第九十七條但書ト第十三條トノ關係如何

松本國務大臣

1 經過的規定ニ非ズ

2 第九十七條ハ第十三條ノ例外タルモノナリ

關屋委員

詔勅ハ制裁ヲ伴ハザルヲ以テ有効無効ハ分明ニ難キモソノ範圍如何

松本國務大臣

廢セラルベキ詔勅トハ法的效力ヲ有スルモノナルベク法的效力ヲ有セザル詔勅ニハ第九十四條ノ適用ナキモノト思料ス

入江長官

金鵄勲章創設ノ詔勅元帥府設置ノ詔勅等ハ法的效力アルモノトシテ廢止セラルベキモ

ノニ該當スヘキモ之カ判定ハ中々困難ナリ

潮委員長

以上ニテ本案ノ審議ヲ一應終了シ以後ハ當分休憩トナシテ閉會ヲ宣ス

（午後三時十分閉會）

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件第一回審査委員會

昭和二十一年五月二十九日（水曜日）樞密院事務所ニ於テ開會

出席者

鈴木議長

清水副議長

審査委員長

潮顧問官

PHOTO SIGNAL CORPS 10 STAT U.S. ARMY

審査委員

林顧問官

小幡顧問官

竹越顧問官

野村顧問官

井坂顧問官

河原顧問官

美濃部顧問官

遠藤顧問官

關屋顧問官

幣原顧問官

大平顧問官

國務大臣

吉田内閣總理大臣

說明員

入江法制局長官

佐藤法制局次長

井手事務官

渡邊事務官

佐藤（功）事務官

樞密院

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY 10

諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官

（午前十時三十五分開會）

潮委員長開會ヲ宣ス

審査ニ先立チ吉田内閣總理大臣ヨリ今回御諮詢ノ本案ハ前草案ニ對スル本院審査委員會ノ意見ニ従ヒ研究ノ上字句ヲ若干訂正シタルガ、

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

前草案ノ實質ヲソノ儘踏襲シタルコト、及ヒ六月十日頃開會セラル、議會ノ劈頭ニ本案ヲ提出シ度キ意向ヲ述ベテ本院委員會ノ審議ヲ乞フ旨挨拶アリ

次デ審議ニ入リ潮委員長本案ヲ一括議題ニ供ス

林委員

左ノ二點ニヨリ本官ハ、本草案ヲ速急ニ審議スルコトナク、愼重綿密ヲ旨トスベク思料スルガ、之ニ對スル政府ノ所見如何、

1. 國内的ニハ本案ノ革新性ハ一部ノ反對ヲ除キ各方面ニ於テ認メラレ、議會ニ於テ否決ノ可能性少キニヨリ審議ヲ急グ要ナキコト

2. 本案ハポツダム宣言ノ趣旨ニ適合シアルニ付、國際的ニモ否認セラルヽ惧レナキモノト認メラルヽコト

吉田内閣總理大臣

内外ノ緊迫セル情勢上、新憲法ハ一刻モ早ク成立セシムルヲ日本ノ爲ト考フ

PHOTO SIGNAL CORPS 10 STAT U.S. ARMY

林委員

本案ハ形式、内容共ニ未熟ノ點尠カラズ、マ元師モ對日理事會ノ席上、原則ニ變更ヲ加ヘザルガ如キ形式的、細目的ノ修正ハ可能ナル旨演述ジ居リ、不適當ナル表現或ハ細目的修正(例ヘバ特赦ト刑ノ執行ノ免除ヲ併記スルガ如キ規定ノ訂正)ヲ行ヒテ然ルベキモノト思料セラル、ガ、政府ノ所見如何、

吉田内閣總理大臣

研究シ度シ

林委員

根本問題ノ一トシテ、政府ハ、主權ガ何人ニ存スルト考フルカ

吉田内閣總理大臣

研究ノ上決定シ度シ

野村委員

1、武力ヲ保持セズシテ、占領軍ノ撤收後起ルコトアルベキ非常事態ニ能ク對處シ得ル力ヲ深ク憂フ、降伏文書ニハ武裝解除ノミヲ謳ヒ、日本ガ未來永却ニ武力ヲ保持シ得

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

ザルモノト解スベキ根據ナケレバ、本官ハ第九條第二項ノ規定ハ削除サレンコトヲ切望ス

乙、皇室經費ニ關スル豫算ガ議會ニ於テ否決セラレタル場合ニハ皇室ハ無一物トナルヲ憂フ、皇室財産ヲ國ノ所有トナス規定ハ削除セラレ度シ

（正午――午後一時半迄休憩）

入江法制局長官（林委員ノ質疑ニ對シテ）

本案ノ「特赦」ハ字句ニ於テ現行憲法ト同一ナ

269

ルガ範圍ハ多少異ナルモノトシタルニ付特赦ノ内容必ズシモ刑ノ執行ノ免除ニ非ザルモノト解ス

河原委員

原案修正ノ可能性アリヤ、本官ハ第八十四條ヲ原案ニテ修正サレンコトヲ希望ス

吉田内閣總理大臣

帝國議會ニヨリ修正ヲ加ヘラル、コトハ可能ナルベシ

遠藤委員

PHOTO SIGNAL CORPS STAT U.S. ARMY

本案ニ依レバ内閣ガヤヽ弱體ナリト考ヘラルヽニ付之ガ強化ヲ計ラレ度シ

關屋委員

法文ノ用語ハ可及的國民感情ニ一致セシムル要アリト本官ハ思料スルガ本案ノ全條文ニ亘リテ修正可能ナルカ

吉田内閣總理大臣

基本原則及ベーシックフォームヲ變改セザル限リノ修正ハ可能ナルベシ

幣原委員

本官ハ國内ノ擾亂ヲ深ク憂フルモノナルガ治安上遺憾ナキヲ期シ得ルカ

吉田内閣總理大臣

占領軍ノ撤收時期ハ一ニ媾和條約ノ締結ニ係ルモノナレバ現在之ニ對スル豫想困難ナリ

林委員

1、恩赦ニ關スル當局ノ答辯ハ誠ニ遺憾ナリ

2、第六十二條及第七十二條ノ修正ノ意義如何

3、第七十七條ノ最高裁判所ノ權限ニ關スル

前委員會ニ於ケル政府ノ說明ハ法文ニ表現サレ居ラザルガ、政府ノ所見如何、

入江長官

2、主權ノ一態樣タル行政權ハ三權分立ノ立前ヨリ内閣ニ歸屬シ、之ヲ行フハ第六十九條デ定ムトスベキ本來ノ趣旨ニ適合セシメタリ

3、前回說明ノ趣旨ハ憲法ニ適合スルカ否カハ裁判ノ際ニ具體的ニ定ムノ意ナリ。

林委員

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

違憲ナリヤ否ヤノ判定ガ訴ヘアルモノニ限ルトセバ、判決ノ效果ハ當事者ノミヲ拘束スルニ過ギザルベシ、須ラク一般的ナモノトスベシ、又下級裁判所ニ對シテモ本條ノ趣旨ヲ擴張スベシ

入江長官

附屬法令ノ立法ニ際シテ研究シ度シ、尚下級裁判所ニ對シ命令、規則處分ニ付テハ違憲ナルカ否カノ判定ヲ行ハシムルコト差支ヘナキモ、ソノ場合ハ最高裁判所ニ上訴シ得ルノ

途ヲ講ズル要アルベシ

林委員

主權ノ所在ニ關スル説明如何

吉田内閣總理大臣

法制局長官ヨリ説明スベシ

入江長官

前同ノ説明ニ同ジ

潮委員長

第五十條ノ参議院ノ緊急集會ハ衆議院解散ノ場合ニ限定セズ、國會ノ閉會中ニモ適用シ

SIGNAL CORPS UNITED STATES ARMY 10

テ如何

入江長官

然ル場合ハ議會ヲ召集スルノ外ナシ然レ共此ノ外當局トシテハ緊急勅令ニ代ルベキ廣範ナル委任命令財政ニ關スル議會ノ包括的ナル承認暫定豫算或ヒハ豫備費ノ活用等ノ手段ニ付考究中ナリ

以上ヲ以テ政府ニ對スル質疑ヲ終リ政府側退席ス（午後二時五十分）

其ノ後審査委員ノミニテ委員會ヲ續行シ本委

員會ノ結論ニ付協議セルガ決定ヲ次回ニ譲ルコトトシテ散會セリ

（午後三時十分閉會）

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件

第二回審査委員會

昭和二十一年六月一日（土曜日）樞密院事務所ニ於テ開會

出席者

鈴木議長

清水副議長

審査委員長

潮顧問官

審査委員

林　顧問官
小幡顧問官
竹越顧問官
野村顧問官
井坂顧問官
河原顧問官
遠藤顧問官
關屋顧問官
幣原顧問官

闕席者

大平顧問官
美濃部顧問官
諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官

（午後一時五分開會）

潮委員長開會ヲ宣シ審査報告案ヲ議題ニ供ス

高辻事務官審査報告案朗讀

小幡委員

本案ニ依レハ憲法草案ハ直接ポツダム宣言ニ基キ起草セラレタルガ如キモ寧ロ勅語ニ淵源ヲ求ムベキニ非ザルカ

關屋委員

臨時議會ノ開會迄猶時間的餘裕アラバ更ニ疑點ヲ政府ニ訊スベキニ非ザルカ

野村委員

本案ハ政府ノ原案ヲ已ムヲ得ザルモノトシ

テ肯定シアルガ委員會ノ席上重大ナル論議アリタル點例ヘバ事實上自衛權ナキ點ハ進ンデ政府ニ適當ナル建言ヲナスベシ

林委員

野村委員ノ意見ニ同感ナリ、時アレバ論議ヲ盡シ愼重綿密ナル審議コソ肝要ナリ

潮委員長

本委員會ニ於テ論議ノ必要或ヒハ修正ノ必要アルモノト決定セバ本官ハ、政府ノ説明ヲ更ニ求ムルニ吝カナラズ

諸橋書記官長
審査報告ハ多数ノ意見ヲ表明シタルモノ故、必ズシモ個人ノ意見ト一致セザルコトアル點ヲ諒セラレ度シ、尚先決問題トシテ憲法草案ヲ修正スベキヤ否カニ關シ本委員會ノ態度ヲ決セラレ度シ

關屋委員
別紙ノ如キ修正意見ヲ述ブ

井坂委員
無修正ニテ進ムベシ

林委員

本案ハ内外ノ情勢上急ヲ要スル旨ノ政府ノ言明ヲ信ジ已ムナク是認スルノ態度ヲ執ルベシ

之ニ對シ關屋委員ヲ除キ各委員ノ賛成アリ次デ之ノ態度ニ從ヒテ本審査報告案ノ可否ヲ檢討セリ

（午後三時半閉會）

PHOTO SIGNAL CORPS 10 STAT U.S. ARMY

帝國憲法改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付スルノ件

第三回審查委員會

昭和二十一年六月三日（月曜日）樞密院事務所ニ於テ開會

出席者

鈴木議長

清水副議長

審查委員長

潮　顧問官

審査委員

林顧問官
小幡顧問官
竹越顧問官
野村顧問官
河原顧問官
美濃部顧問官
遠藤顧問官
關屋顧問官
幣原顧問官

出席者

大平顧問官

井坂顧問官

諸橋書記官長

高辻事務官

鈴木事務官

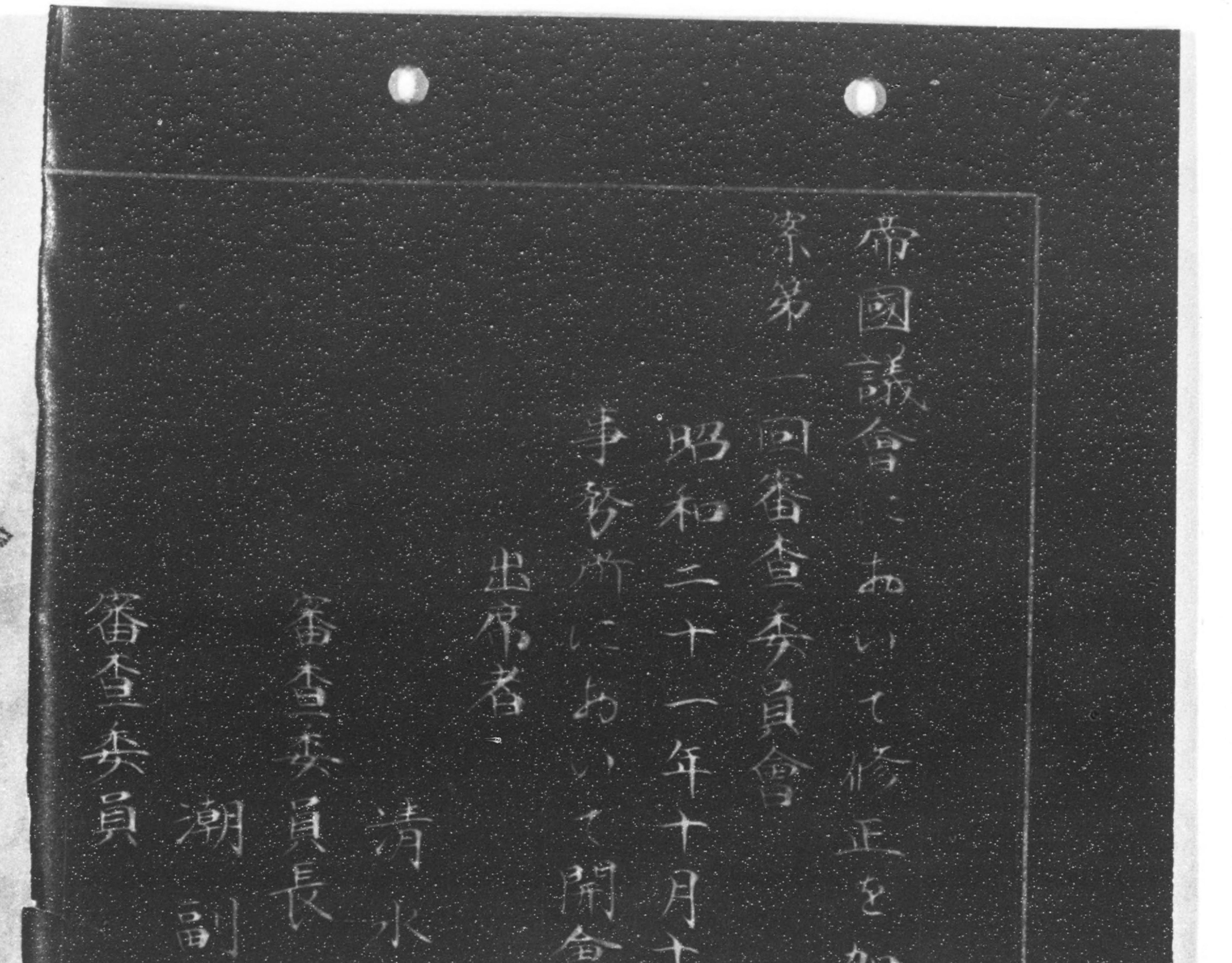
潮委員長開會ヲ宣ス

（午前十時二十五分開會）

前回ヨリ引續イテ審査報告案ノ檢討ヲ行ヒ、別紙ノ通リソノ内容ヲ決定シ、次テ潮委員長ヨリ審査委員會ノ決ヲ採リタルトコロ、美濃部委員ヲ除ク外各委員ノ賛成アリ、結局多數ヲ以テ議決セラレタリ、

潮委員長閉會ヲ宣ス。

（午後三時二十分閉會）



帝國議會において修正を加へた帝國憲法改正
案第一回審査委員會

昭和二十一年十月十九日（土曜日）樞密院
事務所において開會

出席者

清水議長

審査委員長

潮副議長

審査委員

289

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

林（頼）顧問官
小幡顧問官
竹越顧問官
河原顧問官
遠藤顧問官
關屋顧問官
幣原顧問官
大平顧問官
林（毅）顧問官
小坂顧問官

闕席者

審査委員

美濃部顧問官

國務大臣

吉田内閣総理大臣

金森國務大臣

説明員

入江法制局長官

佐藤法制局次長

渡邊法制局事務官

樞密院

PROVISIONAL CORPS PHOTO 10 STAT U.S. ARMY

佐藤法制局事務官
諸橋書記官長
高辻事務官
鈴木事務官

（午前十時五分開會）

潮委員長開會を宣し帝國議會において修正を加へた帝國憲法改正案を議題に供し吉田内閣總理大臣及び金森國務大臣より説明があつて

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT
U.S. ARMY

質疑に入る。

一、前文について

林（賴）委員より

一、新憲法に違反することによつて、法令及び詔勅のみならず憲法さへも排除されることに改正せられた趣意は何か、又この結果、憲法に違反する法令等は前文と本文第九十八條の規定の何れによつて排除されるか、

二、主權の所在に關し最初の原案においては、

松本國務大臣は、「主權在民」とは政治論であつて法律論ではない旨説明した、然るにその後帝國議會の修正によつて、主權は國民に存することが明記されたのは、政治論のみならず、法律論としても確立されたことを意味するか、

の二點を訊し、金森國務大臣より

一、に對しては、前文は理念として一種の自然法原理を表現したものであり、法律論としては人間世界の秩序は憲法を最高のもの

SIGNAL CORPS PHOTO STAT U.S. ARMY

として規律されるが、前文では更に憲法を超へるものを認めて居る譯であり、結局前文はレトリックと考へられる旨

二に對しては、「主權」といふ語は沿革的に生れて、その意義は頗る多岐であり、議論混迷の源となるので、極力これを使ふのを避け度いが前文においては已むを得ず用ひたのである。その意味は國家意思の實質的源泉の謂である。抑々國家なるものは、經驗的に一つの統一した働きをなして居るが、これ

がためにはその源に意思の如きものが存しなければならぬ。而してその國家意思とは、個々の人間の意思の集積より成るものと考へることができ、日本ではこの源泉を從來天皇に求めたものであるが、更に根元的に考ふるならば、國家の意思は、決して天皇一人の意思によつて成立つたものでなく、天皇と國民の心と心とが集積して國家意思を形成したものであり、要約すれば、國家意思の源は國民全體に存したものと考

SIGNAL CORPS
PHOTO 10 STAT.
U.S. ARMY